

冬の寒さの中にカエルの生命を感じる

ここ最近、毎週末田んぼに行って、あることをしていました。
カエルの卵探しです。

以前の通信にも（60号<https://blog.seto-solan.ed.jp/?p=10203>）にも書きましたが、ニホンアカガエルは1月下旬から2月上旬に産卵をします。

先週は雪が降るほど寒い日が連日続いていたので、この週末はあまり期待せずに田んぼに行ったのですが・・・

ありました→

このタピオカのような見た目をしたちょっと気持ち悪いゲル状のものがアカガエルの卵塊です。

（触ると気持ちいいです）

こんな寒い中でも産卵しにくるのはすごいですね。

他のほとんどのカエルは暑くなってから産卵しますが、アカガエルはかなり変わっていて寒い冬に産卵します。



これは、次のような理由があると考えられています。

- ①水生昆虫や魚などの捕食者が活動していないので、卵やオタマジャクシが食べられない
- ②温かくなった春にすぐに成長を始められる
- ③他のカエルよりも早く成長できるので、生活場所やエサを確保できる

一方リスクもあるようで、そのまま寒さが原因で親ガエルが死んでしまうこともあるそうです。毛皮も分厚い皮膚もないカエルが、子孫を残すために命がけで冬の田んぼに飛び込む様子を想像すると胸が熱くなります。

このアカガエルの卵、一部いただいたので家と教室で育てています。

私がこのカエルの卵を教室で育てるのは、（ただの趣味でなく）ちゃんと次のような理由があります。

①自然環境への関心を高める

アカガエルは、近年の稲作の農法の変化が原因で数が激減しています。

昔の田んぼは冬の間も水を張っていたので、アカガエルが産卵する場所がたくさんありました。ところが現在は、コストや効率、土壌への影響など様々な理由から冬の間は田んぼに水を張らなくなり、それに伴いアカガエルも地域によって絶滅危惧種や準絶滅危惧種に指定されるようになりました。もちろん、農薬の使用や付近のコンクリート化なども原因になっています。

将来的に自然環境への関心をもってもらえたらいいなと考えて、環境の変化の影響を受けやすいカエルやオタマジャクシの飼育をしています。

②季節の感覚を身に付ける

1年の中で春夏秋冬が移り変わり、それに合わせて動植物は命を繋いでいきますが、それを学習するのは4年生の理科です。

4年生になるまでに、植物は花を咲かせて種を作ること、カエルは毎年決まった時期に卵を生むことを体験しておくこと、この考え方を自然と学ぶことができるはずで

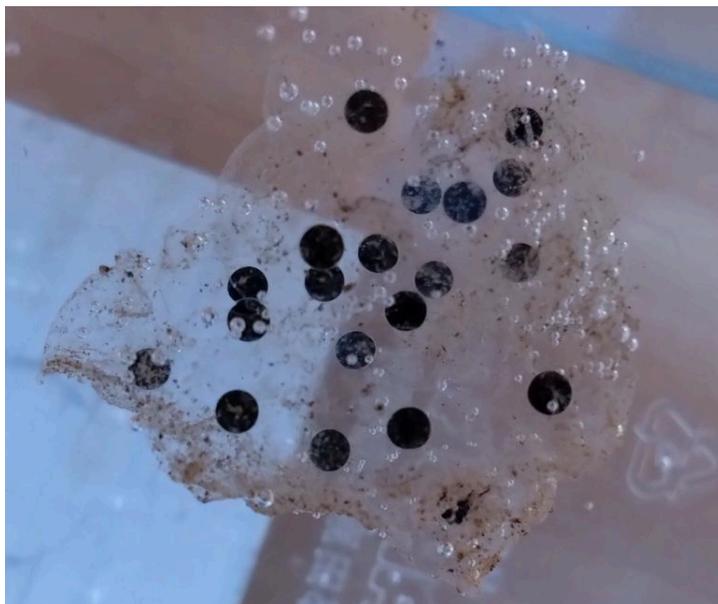
教室で生き物を飼育するのは、家庭ではできない自然や季節の体験を積極的に増やす目的があります。中でもカエルは、産卵や変態、冬眠など季節によって特徴的な行動をとるので、非常によい学習モデルです。

③細かく観察する力、継続的に観察する力をつける

継続的に毎日観察して、細かな変化を見つけることは、実は子どもはすごく苦手です。

私は子どものころこういうことが大好きで、毎日生き物や植物を観察していたので、それが当たり前だと思っていましたが、実はみんながそれができるわけではないことを教員になってから知りました。

できるだけ、毎日子どもが寄ってくるように観察している様子を見せたり、気付いたことを話したりすることで、毎日少しずつ変化していることに気付かせようとしているのですが、子どもに継続的に細かく見る習慣を付けさせるのはなかなか難しいですね。



【発生初期の卵 継続観察のしがいがあります】